

崇神天皇陵堀

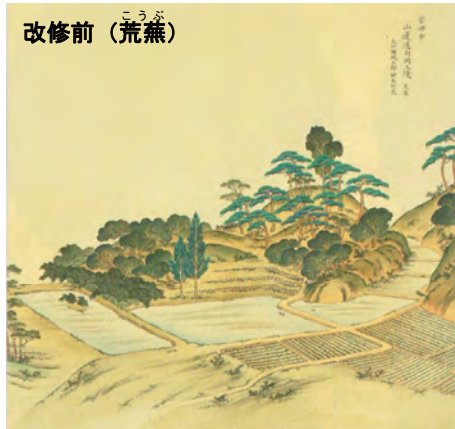
～ 藩費を投じて改修し水利用拡大を実現した天皇陵の周濠 ～

崇神天皇陵の堀（ため池）は、4世紀前半、古墳の造成に伴い築造したと考えられる。

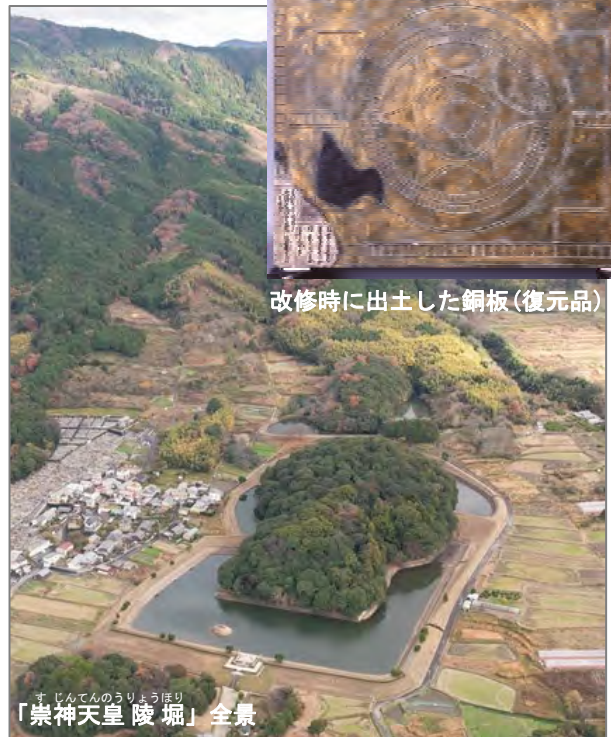
江戸時代末期、尊王論が高まり、江戸幕府は荒れ果てていた全国の陵墓改修の方針を定め、崇神天皇陵においては柳本藩により改修がなされた。

改修工事は、他の陵墓では幕府の費用により修理していたところを、柳本藩は幕府と交渉し工事を直接担当することを特別に認められ、自費で改修（1864～1865年）を行い、堀を幕府規定よりも規模拡大し水利用する権利を獲得した。

この功績を讃え、1896年、顕彰碑（修陵餘潤之碑）が柳本藩の菩提寺である専行院に建立され、近年では、柳本町自治連合会により、毎年、田植えを終えた7月に、柳本藩主の子孫を招いた「藩主祭」を開催し、感謝と喜びの気持ちを今に伝えている。



ぶんきゆうざんりょうず こうぶ じょうこう
文久山陵図（荒蕪・成功）



改修時に出土した銅板（復元品）

「崇神天皇陵堀」全景



毎年開催される藩主祭の様子（2025年7月 専行院）



位置図